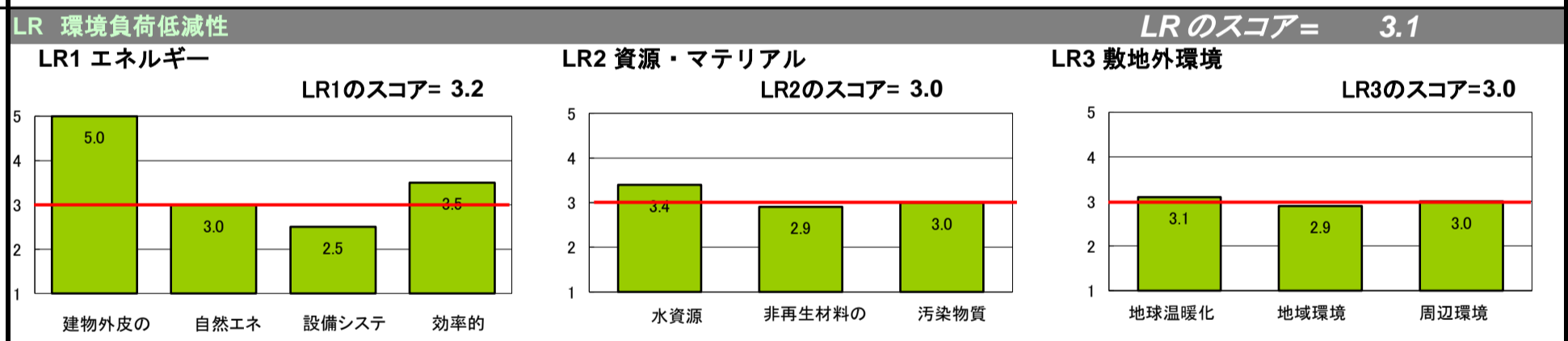
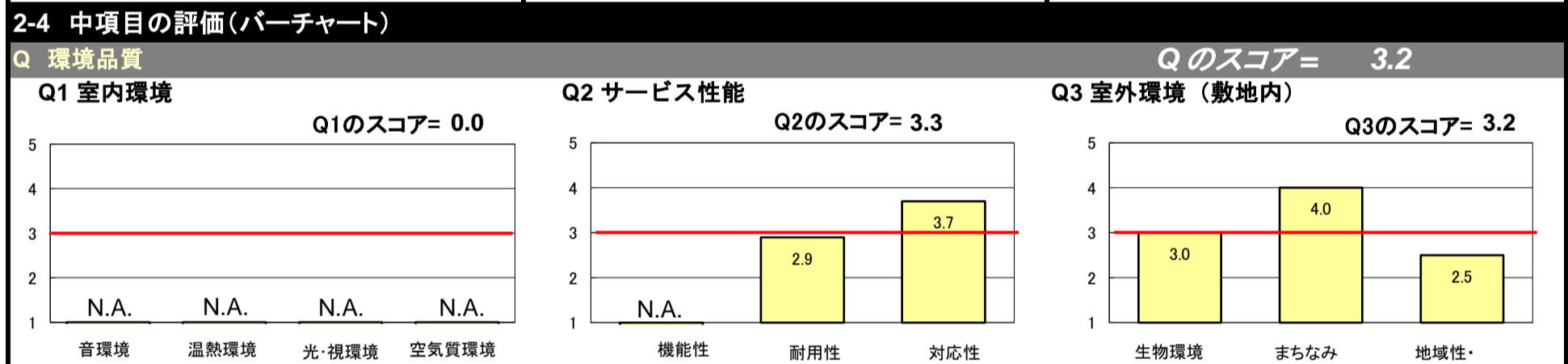
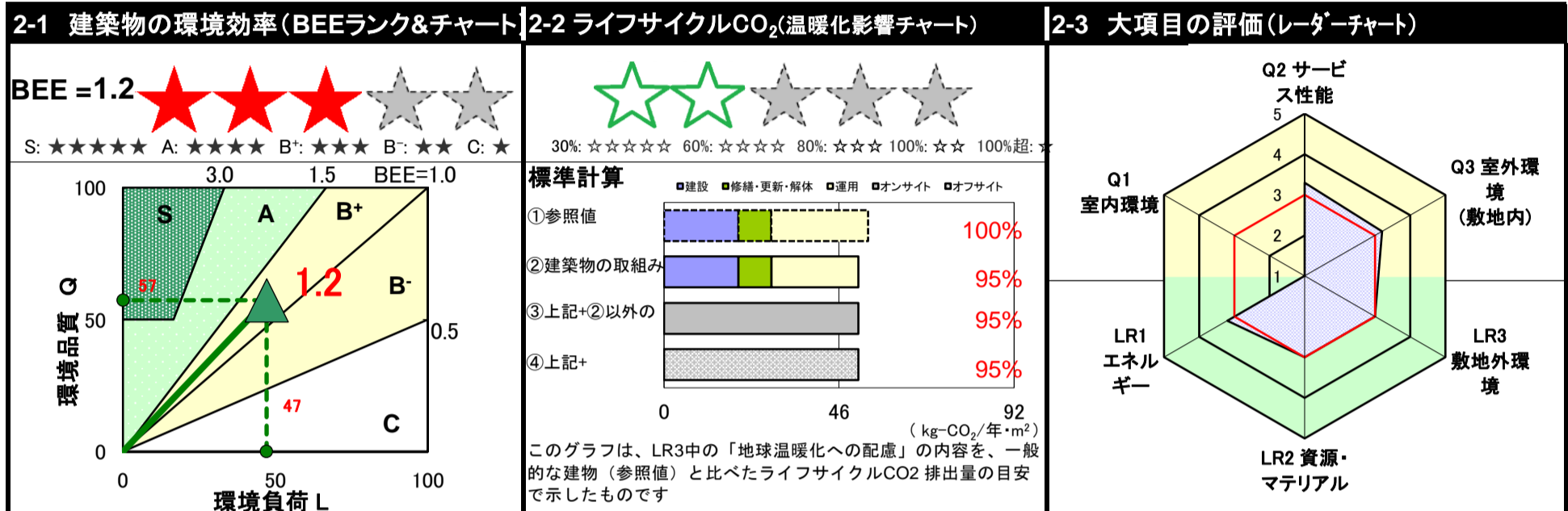


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	パイロットインキみよし工場 第1組立工場	階数	地上2階
建設地	愛知県みよし市福田町池下3-3	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	42人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,880時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年8月 予定	評価の実施日	2022年8月19日
敷地面積	41,617 m ²	作成者	田辺 愛
建築面積	5,213 m ²	確認日	2022年8月22日
延床面積	8,205 m ²	確認者	近藤 剛史



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.1</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>17.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.1</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分				全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.2	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1	室内騒音レベル		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
1.2	遮音		-	-	-	-	-	-	-	
1	開口部遮音性能		-	-	-	-	3.0	-	-	
2	界壁遮音性能		-	-	-	-	3.0	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	
1.3	吸音		-	-	-	-	3.0	-	-	
2 温熱環境										
2.1	室温制御		-	-	-	-	-	-	-	
1	室温		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	外皮性能		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3	ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2	湿度制御		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2.3	空調方式		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 光・視環境										
3.1	昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	
1	昼光率		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	方位別開口		-	-	-	-	3.0	-	-	
3	昼光利用設備		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.2	グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	
1	昼光制御		5.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.3	照度		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.4	照明制御		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4 空気質環境										
4.1	発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	
1	化学汚染物質		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.2	換気		-	-	-	-	-	-	-	
1	換気量		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	自然換気性能		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3	取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.3	運用管理		-	-	-	-	-	-	-	
1	CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	
2	喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能					0.43				3.3	
1 機能性										
1.1	機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	
1	広さ・収納性		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3	バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2	心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	
3	内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3	維持管理		-	-	-	-	-	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	
2	維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1	耐震・免震・制震・制振		0.5	2.9	0.52	-	-	-	2.9	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2	部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2.4	信頼性		0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	
3	電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
		②	非常時にトイレなどが使えるようにBCP対策をした							

3 対応性・更新性			0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	4.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	4.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	5.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.6	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.9	3.0	2.5	0.50	-	-	-	2.5
4 効率的運用			0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒		3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:17.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	将来増築を見越して、設備の拡張スペースや敷地内外の動線などを計画的に設計することで、無駄のない工場計画とした。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	事務エリアの執務空間やリフレッシュスペースを広くとることで、働きやすさに配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部に緑地帯を設けて、周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー	電力監視システムを導入し、空調などの利用制御を行うことで、エネルギーの利用に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水型の便器や、自動水栓を使用することで、節水に配慮した。
LR3 敷地外環境	出入口を三カ所設け、敷地内の車路を一方通行にすることで、周辺道路が渋滞しないように配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。